

池田市政と

産業・都市基盤の整備

矢野 彌生

（会員 佐伯市中山区）

〈前号〉

一九 池田市政と産業基盤の整備

（四）長島土地区画整理事業

二〇 池田市政と産業・都市基盤の整備（続）

（五）池田第一土地区画整理事業

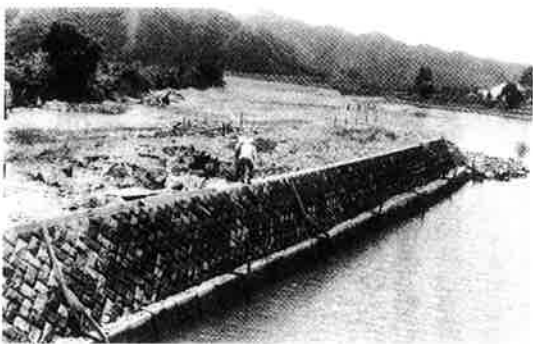
〔城南区と池船区の一部を含む地域の区画整理〕 この土地区画整理地区は旧番匠川を隔てて市街地中心部に接し、旧番匠川と新番匠川にはさまれた区域である。すなわち、第一図にみるように、城南区と池船区の一部を含む地域の区画整理で、住宅地としては最適の地域である。

施行地区の区域を字名で見ると、大字池田のうち、字渡場、字大開、字表浜、字中ノスカの各字の一部。さらに大字稲垣のうち、字切の鼻、字屋敷、字北田、字後新地、字角石、字一ノ口、字中通、字間渡、字一本榎の各



施行地区の位置

第1図 池田第一土地区画整理事業の施行位置
（『池田第一土地区画整理事業完了記念』による¹⁹⁹¹）



城南橋付近の護岸工事（『工事完了記念誌』昭和53年）



城南橋付近の河床均（『工事完了記念誌』昭和53年）



城南橋付近の側溝工事（『工事完了記念誌』昭和53年）

字の全部と字荒新地、字表浜、字掘り、字久保、字中州の各字の一部が含まれる。⁽¹⁰⁰⁾

池田第一土地区画整理事業は、高度成長期を中心に、住宅が急増し、住宅地の不定を補うことを目的としたもので、健全な市街地の造成を図らんとしたものである。事業完成のあいさつで、池田利明市長は事業の概要を

次のように述べている。

昭和二十六年から国の直轄として番匠川の改修工事が行われ、長瀬、久部、蛇崎、池船各地区のご協力により、旧河川から新しい河川に流路が変更され加えて堅固な堤防に護られるようになって、かつて長瀬津留と呼ばれていた頃のわずか数戸の建物と長瀬大根の産地として

第1表 土地区画整理事業の経過

年号	日 本	佐 伯	区 画 整 理 事 業
昭和32			都市計画決定 (12. 19)
37		住吉橋架橋	施行規定制定 (3. 23)
38		4月 佐伯市新庁舎着工 5月 出納第二部三選	
39	東京オリンピック大会	9月 佐伯市新庁舎完成	事業計画認可 (3. 31)
40		3月 し尿処理場完成	
41		5月 市営球場完成 10月 大分国体	工事着手 (8. 16) 審議会委員選挙 (10. 9)
42	吉田 茂没す	5月 池田利明市長就任	公有水面埋立免許 (1. 20) 第1回審議会 (2. 21) 評価委員選任 (2. 21) 第1回事業計画変更認可 (3. 23)
43	明治百年	12月 翠明台公園完成	第1次仮換地指定 (3. 1) 第2次仮換地指定 (10. 20)
44		3月 佐伯市公害対策協議会 発足	
45	日本万国博	11月 佐伯文化会館起工	第2回事業計画変更認可 (3. 24) 第3次仮換地指定 (9. 15)
46	沖縄返還協定	4月 池田利明再選 9月 佐伯宿毛フェリー就航 11月 佐伯文化会館完成 市制施行30周年 12月 長島土地区画整理事業計 画決定	審議会委員改選 (10. 24)
47	日中共同声明調印 札幌オリンピック	6月 大人島水道完成 8月 御作事橋完成	第3回事業計画変更認可 (3. 31) 都市計画課新設 (4. 1)
48		4月 広域消防署庁舎完成	
49		8月 佐伯鶴城高校甲子園出場 9月 大入島フェリー就航 11月 池田第2土地区画整理事業計 画決定	第4回事業計画変更認可 (2. 26) 公有水面埋立竣工認可 (5. 22) 工事完了 (11. 2)
50	沖縄海洋博	3月 市花・市木制定 9月 黒沢ダム完成	第5回事業計画変更認可 (3. 28)
51	ロッキード事件	4月 佐伯市立渡町台小学校開校 8月 佐伯駅開業60周年	公有水面市域編入 (1. 13) 町名町界の変更決定 (1. 30) 第6回事業計画変更認可 (9. 17)
52		4月 広域圏し尿処理場完成 7月 畑野浦トンネル開通	第7回事業計画変更認可 (3. 15) 換地計画認可 (3. 22) 換地処分通知書発送 (3. 24) 換地計画変更認可 (4. 24) 換地処分の公告 (4. 26) 区画整理登記完了 (5. 30) 第1回清算金徴収 (12. 20)

(『池田第一土地区画整理事業完了記念』による)

知られていたこの土地が、急速に住宅地として発展してきました。この池田第一土地区画整理事業は、この地域城南区（世帯数三三〇）と池船区（世帯数三六五）の一部を含む二十三万七千平方メートルを公共施設の整理改善と宅地の利用増進を図って健全な都市づくりをするために土地の区画や形質の変更をしようとしたもので、昭和四十五年度に着工し、幅員十六メートルの幹線道路と、これに接続して東西に貫く区画街路、南北につながる区画街路とを建設し、三か所の児童公園を新設したものであります。なお、また、引き続きこの幹線道路に接続する第二城南橋を架設し、将来は国道二一七号線のバイパスへの連絡を図り、一方、池田第二土地区画整理事業を目下施行中で、残りの池船区全体の区画整理事業を完了する予定にしています（以下略）。

いま、土地区画整理事業の経過をみると第1表のとおりである。池田第一土地区画整理事業は昭和四十五年（一九七〇）度から六年がかりで進めた土地区画整理事業によって新しく生まれた住宅地である。それは東西に長い地区のほぼ中央を幅十六メートルの幹線道路が貫いて、それに平行して東西に七本、交差する南北の街路十本が走っ

ている。道路は碁盤目状に配置されている。

市の中心街とは中江川で一線を画し、南側の農村地帯とは番匠川で隔てられていて、申し分ない生活環境。都市再開発が比較的遅れている佐伯市では一等地。道路はすべて舗装されており、区画整理事業が終わった昭和五十二年以後は、住宅の新築工事がいたるところで盛んである（『読売新聞』昭和五十四年五月十日版）。

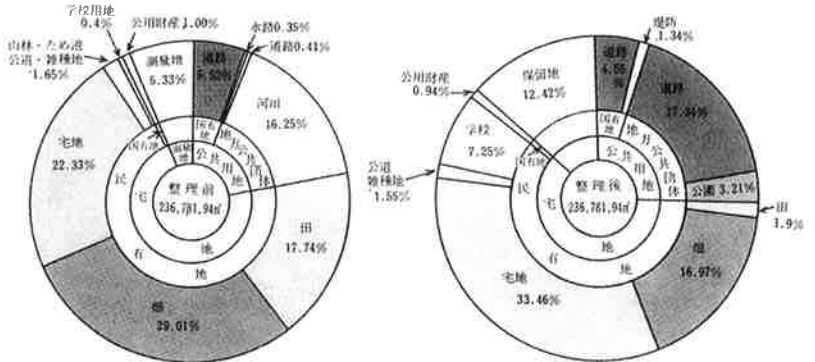
整理後の公共用地の状況を見ると、第2表のとおりである。また整理施工前後の用途別対照を示すと第二図に示すように、宅地が増加し、畑地が減少していることが分かる。また、自動車の時代をふまえ、道路面積が増え、学校、公園等の公共用地が著しく増加していることが分かる。

〈整理事業の前の状況〉長津留は大根の産地、住宅は数戸だった。いまでこそ、立派な木造建築が立ち並ぶ住宅地になっているが、前述の池田市長のあいさつにもあったように、かつては長津留と呼ばれて住宅は数戸。わずかに長瀬ダイコンの産地があった程度で、全体としては荒れ地であった。一級河川の番匠川に接していたため、たびたび水害にあい、畑作も困難をきわめた。しかし、

第2表 整理後公共用地

		幅員	延長	面積
都市計画 画街路	女島城南線	16 m	696.64m	11,283.21㎡
	船頭町池船線	8.0 (4.0)	146.06m	584.14㎡
	計		842.70m	1,1867.35㎡
区画 街路		9 m	744.28m	7,710.27㎡
		8 m	1,626.22m	13,108.39㎡
		6 m	3,144.35m	18,781.06㎡
		4 m	335.34m	1,1378.02㎡
	計		6,692.89m	51,845.09㎡
堤防敷				3,161.50㎡
公園	1号(若草)			4,146.23㎡
	2号(みどり)			1,706.43㎡
	3号(池船児童)			1,762.09㎡
	計			7,614.75㎡
総計				62,621.34㎡

(『池田第一土地区画整理事業完了記念』による)



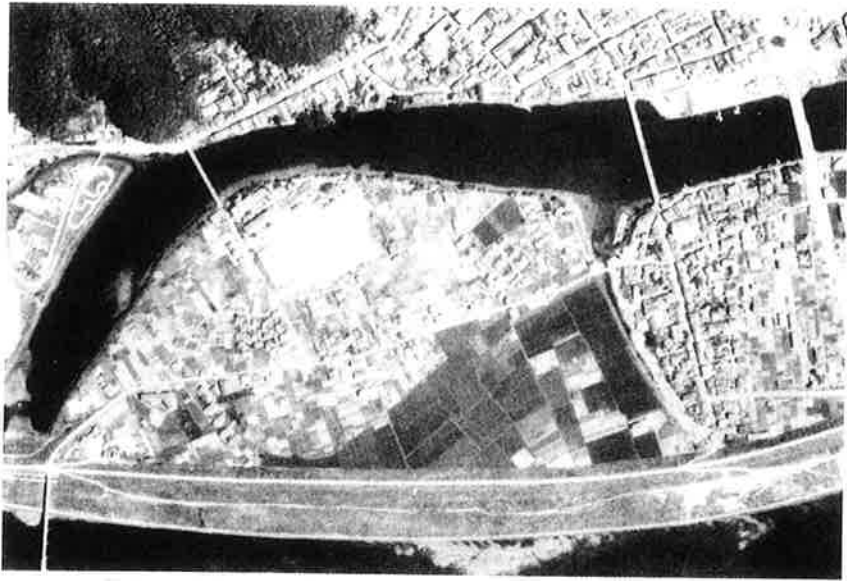
第2図 整理施行前後の用途別対照

(『池田第一土地区画整理事業完了記念』による)

番匠川が国の河川改修事業で流路が大きく変更された。現在にみるように堅固な堤防ができ、長い間苦しめられた水害の懸念もなくなった。

佐伯市が隣接地の池船区の一部を含む二十三・七（七）の区画整理を実施した。中江川は番匠川の流路変更によって新設された川だが、対岸の船頭町側も三百年来、洪水と戦ってきた堅固な石畳や石がきも埋め立てによって姿を消し、国道二一七号線と三八八号を結ぶバイパスが建設され、川沿いにはショッピングセンターもできた。「昔の様子しか知らない人には、ちよっと想像も出来ないのではないだろうか」（大串敏晴区長）というほどに様相は一変した（『読売新聞』昭和五十四年五月十日版）。

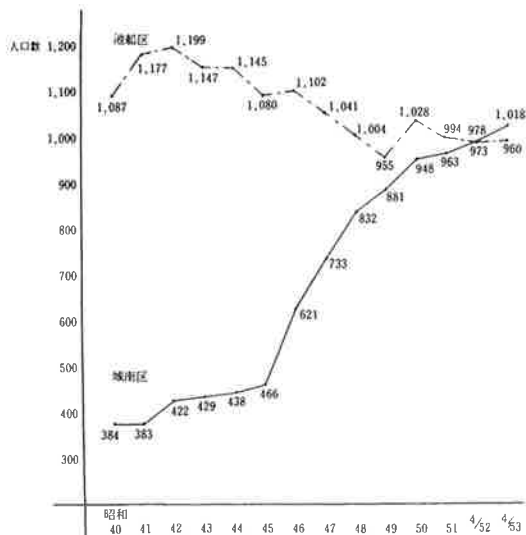
〈昭和五十三年ごろの城南町—人口増加、住宅地に生まれ変わる〉いま、池田第一土地区画整理事業の完成をみた昭和五十三年（一九七八）ごろの、同地区の人口・世帯数の推移をみると、第3図・第4図のとおりである。すなわち、事業の中心であった城南町は三二八世帯一〇一八人が住んでおり、アパートや貸家もあるが、大半がマイホーム。それもデラックス建設が目につく。買い物は歩いて四―五分、小学校は約十分、中学校は地区内と



施行前の全景図（『池田第一土地区画整理事業完了記念』による）

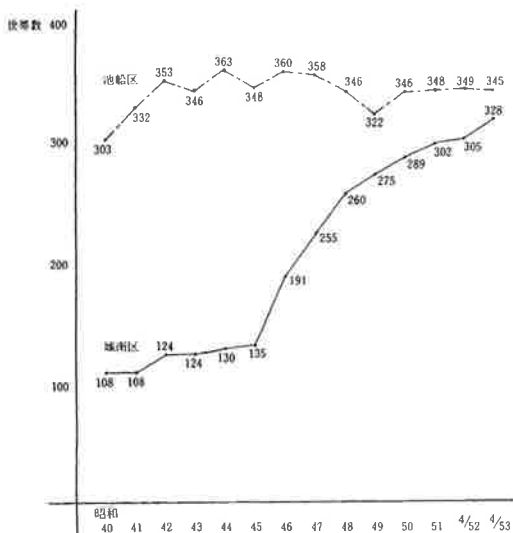
いう便利さからサラリーマンが多く、なかでも多いのが学校の先生。小中学校あわせるとざっと二十人にもおほるという。

各地区からの寄り合い世帯の新興住宅地は、とかくま



第3図 施行地区の人口移動

(『池田第一土地区画整理事業完了記念』による)



第4図 施行地区の世帯数移動

(『池田第一土地区画整理事業完了記念』による)

とまりが悪いものだが、大串区長は「新興住宅地にみられがちな騒々しさといったものは全く感じられない。何をやるにもまとまりがよい」と話している。連休最終日の六日に初めて地区体育祭を楽しんだ。

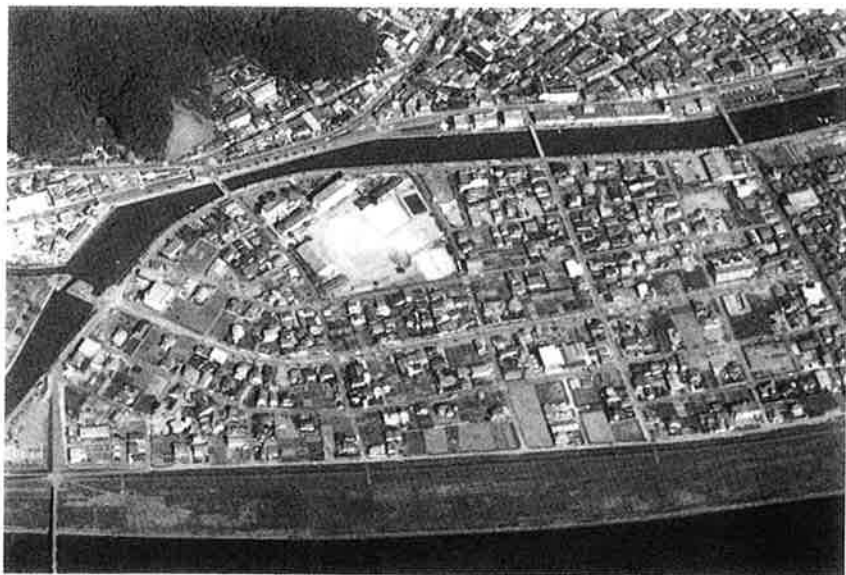
また、当時の城南町の状況を見ると、地区内に五つの小学校区から集まってくる佐伯城南中があり、中江川を隔てて県立佐伯豊南高校もある。児童公園が二つ、医院が二つ。番匠川の堤防は自動車を締め出し、歩行者と自転車専用道で、朝夕、子供からお年寄りまでトレーニングウェア姿でランニングを楽しんでいる。広い河川敷はいつも使える運動場広場で、静かで健康的な町を形成している（『読売新聞』昭和五十四年五月十日版）。

注(99)『池田第一土地区画整理事業完成記念』（昭和

五十三年 佐伯市）

(100) (99) に同じ

(続く)



施行後の全景写真（『池田第一土地区画整理事業完了記念』による）